



平成二十六年年度に向けて

ユウパリコザクラの会

代表 藤井 純一

ヒユッテ再建三ヶ年計画も昨年度で終わり、それにまつわる様々な行事も無事終わることができました。会員の努力もさることながら、ご支援、ご理解を下さった道内・全国の皆様のお陰と深く感謝しております。

年度末の三月二十九日には文化発展に寄与したということで、夕張市文化協会賞を戴きました。地元夕張から戴いたことは、創立二十五年のユウパリコザクラの歴史で初めてで大変光栄なことと思います。予てから夕張岳の自然イコール文化財だという認識が正當に評価されたことと思います。

ここ五年ほど「産炭地域子ども事業」を

施しています。夕張市及び夕張岳の未来を担う子どもたちの育成は大いに意義のあることで、これを契機により一層力を入れて実施したいと思います。

第96号

2014.4.16 発行
(平成26年)

ユウパリコザクラの会
事務局

〒068-0412

夕張市鹿の谷東丘町 3

水尾君尾方

TEL/FAX 0123-52-3306

携 帯 090-8632-8928

E-mail
kozakura@m8.dion.ne.jp

ホームページ
<http://yuparikozakura.org/>



夕張市文化協会賞授与式

さて夕張岳ヒユッテの話になります。今年度から炊事場の建設が始まります。募金は

全て母屋のために使い果たしてしまいい、現在ほとんど資金がない状態です。従って請負業者に頼むことができず。すべて自前で工事をしなければなりません。開

道一番基礎工事がありません。勿論手掘りはありませんが、コンクリ打設などかなり辛い仕事があります。皆様ご協力宜しくお願い致します。また資金カンパ活動もお願い致します。

二十五周年記念誌については皆様の寄稿と編集委員の努力により、まもなく発行できる予定です。素晴らしいできればえだと自負しています。どうぞお楽しみにして下さい。

四月五日・六日とヒユッテに行つて来ましたが、周辺は積雪一メートルほどです。例年になく雪解けは早いと思えます。楽しみなヒユッテ活動も間もなくです。皆様の力を結集して、母屋にふさわしい炊事棟を建設しましょう。



余興で舞う事務局長



賞状と記念品を受ける

ヒュッテ雪下ろし

(二月二五〜二六日)

会 員 きくち こうじ

冬季恒例ヒュッテ雪下ろしの一時期に参加しました。今年は産廃施設まで除雪されていたので、以前の国道から歩いた事を思うと非常にありがたいことだった。

今回はスノーモービルの出動は無く全員がスキーでの歩行だ。林道ゲートからの心配したラッセルは雪が軽くて苦にならない。代わる代わる先頭を交代しながら順調に進む。昨年起きた土砂崩れ箇所もまだ雪崩れてなく普通に通過できた。しかしやはり一kmは長い。単調な歩きなので途中から音楽を聴きながら、何度か休憩をして進んだ。「ヒュッテまで二km」の標識を見てようやく元気が出てきた。冷水コース登山口を通過するともう登りは無い。坂を下ると雪を乗せたヒュッテの全景が見えた。手前の沢が開いていたので少し上流に回ってスノーブリッジを渡る。ヒュッテ周辺の積雪は一m五〇cm位といったところか、ヒュッテ前の

看板が一mほど出ているので昨年より一m位少ないと思われる。早速シヨベルで入り口近辺の除雪をする。旧ヒュッテの時と違い下に掘らなくて良いので格段に楽だ。中に入りストープに点火して部屋を暖める。夜使う電灯用発電機をストープの近くで温める。ついでに凍つてた缶ビールもストープの上で温めていたら一本が爆発して皆でびっくりした。ヒュッテに来るまでそれなり時間を使ったので、雪下ろし作業は明日として、安着祝いと夕食&宴会モドキのパターンとなる。五人の生活熱で屋根の雪が融けるだろうと期待したが、さすがに総面積が大きく、翌朝までそのままだった。

二度目の冬を迎えたヒュッテの雪はおおよそ八〇cm位堆積していたが、何度か自然に落ちた形跡が見られるのでそのままとして、今回はトイレ棟屋根の除雪をする。最初は下から突いて落としていったが、限界になったところで藤井代表が身軽に屋根に乗り大きな塊をどんどん落としていく。下山の時、下の駐車場の工事現場型トイレが、大きなキノコのように雪が乗っていたのできれいに落とした。藤井さんは今後のスノーモービルでの走行を考慮しながら皆と違う



トイレ小屋の雪を落とす

ラインを歩いてトレースを付けていく。比較的雪も締まっていたので来週であればすんなり来ることができそうだ。年末から正月にかけて不摂生な生活だったが、適度が運動ができて満足でした。

夕張岳ヒュッテ

屋根雪下ろし作業

(二月十五、十六日)

会員 阿部 博子

今季二回目となる二月の作業に八名で参加しました。

一月同様今回も産廃施設まで除雪が入っていたため約十キロの林道をスキーとスノーシューで入山です。資材や食材、メンバーの荷物はスノーモービルに預けます。

林道周辺はこの時期にしては積雪量が少なく思えますが、ヒュッテ周辺はどうなっているのでしょうか。

夏季の最終駐車場から急な林道をスキーで十五分程登って行くと赤い屋根が見えてきます。私としては数か月振りにヒュッテとの再会です。ヒュッテ周辺は、やはり昨年に比べ積雪量は少ないようです。屋根の雪は概ね落ちていますが、軒下にたまった雪が山となっているのでそれを除ける必要があります。積雪が少なめとはいえ、ドアが雪に埋まっているので、玄関口まで雪を掘り階段を作ります。まるで穴倉に降りて行くようです。

ヒュッテに入り、まずはストーブの点火。そして昼食のための湯を沸かしますが、置い

てあった水はガチガチに凍ってたのは勿論、食用油までもが凍りついていました。凍った水を解かしながら沸かすより、沢水を汲んで沸かした方が早いです。

スノーシューのメンバーも次々に到着し、全員そろったところで、各自持参した昼食を摂りながら午後の作業に備えて休憩です。

午後からはスコップを持ち除雪作業です。まずは軒下の雪山を除け、つかえて落ちることができないでいた雪を落とします。まだ二月、これからも雪は降り積もりますから、この雪も除けておかなければなりません。単純な作業ですが、結構な重労働です。メンバーは時々腰をさすりながらも労働に励みます。最後にヒュッテからトイレへ行く道を作り初日の作業は終了です。

長い冬の間、雪に埋まっていたヒュッテはストーブを焚いてもなかなか暖まりません。今夜は人数も少ないので寝室の戸は閉め切り、囲炉裏を囲んで過ごすことにします。

夕食のメニューはすき焼とメンバーから差入れられたジンギスカン。皆防寒着をしっかり着込み、冷え切ったビールで乾杯します。

外は徐々に風が強くなり気が付けば大荒れになっていました。トイレまでの往復で遭難するのではないかとの冗談もです。それでも皆で建てたヒュッテは堅牢で私たちを冬の嵐から守ってくれています。外の嵐とは対照



2月15日雪下ろし

的に平穏なヒュッテ内では、ささやかな宴のひと時が過ぎて行きます。

朝には外の風はかなり収まってきました。帰りの林道の積雪が気になっていましたが、降雪量はそれほどでもなかったようです。荷物を預けたスノーモービルが一度埋まりましたが、皆で手を合わせて脱出し全員無事駐車場に戻ってきました。

雪に閉ざされた山中に静かに佇む夕張岳ヒュッテとの再会、会のメンバーとの除雪作業や夕べの宴。下界ではなかなか味わえない有意義な週末を過ごすことができました。

夕張岳

春山パトロール報告

(三月二二～二三日)

会員 明田 通世

三月二十二日六時四十分小雪舞う中七名のスキー班がヒュッテを出発する。樹林帯の中には賑やかなテープが木に括りつけてある。馬の背コースに出てその先、望岳台の下部で一名はスノーシュー組へ合流した。ここでの積雪は3m強あり弱層テストを試みるが雪崩の危険は少ないと判断する。視界は無いが薄日が時々射し進むか否か判断に迷うがパトロールも半ばで気を取り直して前進を決断する。前岳をトラバース気味に巻き地形に詳しいT氏の好リードでガマ岩付近に到着し小休止とする。小腹を満たし前に進むがまだ視界は不良、地形図、コンパス、GPSとにらめっこを繰り返して吹き通しまで歩く。鉄杭の頭に冷たそうにエビの尻尾が着いている。積雪は一・七mあり風紋が堅く締まっている。道中モービル痕も全くなく真冬の夕張ロード。ここで引き返す選択肢も80%あったがアイゼンをつ

けて登頂意欲満々。「よしそれではもうひと踏ん張り」慎重にステップを切り、十二時三十分夕張岳山頂。初期の目的全線パトロール完了。標識は雪に埋まっているが測量標が顔を出して迎えてくれた。万歳！



夕張岳春山パトロールへ出発 3月22日

夕張岳春山パトロール

会員 谷口 浩章

ここ数年、参加できなかった「春山パトロール」だが、今年は日程が合ったので久々に参加。「最近山頂まで行つてないので、今年には山頂まで行つてくるように」とのプレッシャーを受けて、明田さんをCLに六人のスキー隊が山頂を目指す。新雪を踏みしめて稜線を目指す。雪の状態は良く、心配していた馬ノ背への急斜面も順調に登る。稜線に出てから徐々に天気が悪化する。同行していたスノーシュー組は予定通り望岳台で引き返す。一方、スキー隊は明田CLの指示により小雪の降る中、山頂へ向かうことにした。

前岳直下の斜面をトラバースして、ガマ岩あたりまで来たところで、薄いガスがかかるようになり視界が悪くなる。晴れていれば最短距離を行くのだが、視界が効かないため、地形に沿って慎重にコースをとる。湿原上を通過して釣鐘岩・熊ヶ岳を巻いて吹通し(場所名)に到着。雪は降ってい

るが風は穏やか。プローブで積雪を測った後、スキーをデポして山頂へ向かう。久しぶりの積雪期の夕張岳山頂。雪のため四周の山並みは見えないが、嬉しさには変わらない。

吹き通しに戻り、スキーを履いて下山。スノーモービルの痕跡は無かったものの、登りのトレースも雪に埋れてしまっていた。明田CLの的確な状況判断に導かれて、順調に雪の湿原を抜け、前岳の麓をトラバースして望岳台に到着。馬ノ背の樹林帯まで戻ると、そこから先は降雪のおかげで嬉しい新雪斜面となっていた。苦労した甲斐があったと思いつつ、各自思い思いのシユプールを林間に描きながら下山。九時間半にわたる雪の春山パトロールは無事終了し、久々に積雪期に夕張岳山頂を踏むことができた。



アイゼンに履き替えて頂上をアタック



雪の夕張岳頂上

夕張岳春山パトロール に参加して

会員・東京都 仲前 聡

いつも一期一会、一人で全国津々浦々の山に登っている僕は、常にゲストでした。登山道を整備し、小屋を管理している人たちのことを横目で見ながらいつも登っていました。また、自然環境が利権や経済優先のために潰されていくことに一矢報いたいという願いもあります。それは本当に壮大な運動であります。

だから、いつかは「ゲスト」ではなく「ホスト」（＝主体者）に関わりたいと思っただけです。その最初の関わりが、ユウパニコザクラの会と出会った二年前の「産炭地域子ども事業」であり、今回の「夕張岳春山パトロール」でした。

今回のパトロールに参加する目的はもう一つ。山スキーを経験することでした。ゲレンデでしか使ったことのない山スキーを、五年後に初めて山で使おうと。

しかし、その結果は無残でした。実は以前は合った靴が合わなくなっており、使えなかったのです。予備に持ってきたスノーシューと登山靴が大活躍しましたが、そのスノーシューもまたいつも使っている輪力

ンジキの取り回しの良さには敵わないことも解りました。傾斜の急な場所では、重く大きなスノーシューは逆に足かせになると。

そしてもう一つ、参加した目的がありません。それは、「山における集団行動」の経験です。大仰ですが、人間的な幼さを克服したい。例えば、自分で考えて行動できるようになったり、ものを企画し実行に移したりするようになる、など。

今回は、雪崩のこと、スキーのこと、雑談で出たシューパロダムのこと、雪の夕張岳のことなど、少しだけ理解が進んだ気がします。パトロールとは言っても、結局は自分のために行った。そんな気がします。



雪崩危険度チェックの弱層テスト



女性群に迎えられてゴール



頂上にて

浅野さん春山パトロール 全ルート完歩

久しぶりに夕張岳頂上に到達できた今回の春山パトロールでは、初参加の浅野昌樹（夕張市）さんが、スタート地点からヒュツテまで、そして翌二二日の夕張岳往復、更に帰路二三日ヒュツテからゴール地点までの全行程を全て自分の足で完歩しました。その距離はおよそ三六kmほどでしょう。

ヒュッテ周辺のパトロール

(四月五、六日)

会員 きくち こうじ

三月の春山パトロールを欠席したので一月以来のヒュッテ訪問となった。

今回はスノーモービルの機動力を生かして五人と荷物を引つ張つる。雪はよく締まっ所の雪崩ポイントにもその跡は無かった。自然に融けた感じの何か所かはまだ一m位の雪が落ちずに残っているので楽観はできない。トラブル無く一二時にヒュッテが見えた。屋根には雪は無い。手前の沢を少し進んでスノーブリッジを渡る。これはあと十日持つだろうか。ヒュッテに入り、恒例の安着式と昼食を摂り、午後は普段はなかなか行けないヒュッテ先の二股沢まで散策に出ることにした。

ツボ足でも泥濘らないちようど良い硬さの河畔林の中を歩き出す。大きな株が二mほどのところで焼失しておそらく雷が落ちて燃えたのではないだろうと想像したり、樹木の種類の観察をしながら進む。地形図には川の線は出ていないがC七〇〇あたりで沢は二つに分かれる。地図上の沢は

そのまま東に延びてC七五〇あたりで消えているが今回は二股の北北東に延びる沢を少し詰めてみることにする。下には最近のものと思われるデブリの跡がありその高さは沢底からおおよそ五、六m位はあるだろう。少し気持ち悪いがデブリの上を伝いながら高度を上げていく。このデブリは全層雪崩のようで、笹の根がちぎられていたりしている。大きなブロックは一mくらいはありほとんどが氷なので重量も相当であろう。ゾンデ棒などは全く刺さらない氷の塊だらけである。斜度はそうでも無いのによく流れてきたものだと思う。デブリは二、三百mほど断続的に続いていて先端まで行ってみると、更に百m左上部に大きく笹原が伺え、そこが破断面と確認できた。右側はまだ雪が残っていて今後雪崩れてくる可能性もあるのでここで退散する。標高はおおよそ八五〇mで、あと約百m登れば地図上のC九七六から滝ノ沢岳に続く稜線に出るだろう。デブリが削った沢の中を尻すべりで軽快に下ってヒュッテに戻った。その後就いた、賞味期限が近い保存品の処理作業(?)は勤務時間を過ぎても続いた。

会のうごき

- 1月
27日 コザクラだより 95号発行
29日 記念誌編集会議 6名
- 2月
12日 同上編集会議 5名
15日~16日 ヒュッテ雪おろし 8名
28日 幸福の黄色いハンカチ基金助成申請
- 3月
1日 講演会「国立公園大雪山の地熱利用について」 藤井代表出席
18日 記念誌編集会議 5名 役員会議 7名
21~23日 夕張岳春山パトロール 兼スノーモービル痕跡調査 12名
26日 記念誌編集会議 5名
29日 記念誌編集会議 5名
29日 夕張市文化協会賞授与式典 20名 ゆうぱりホテルシューパロ
- 4月
15~6日 ヒュッテ周辺パトロール 及び林道状況調査 5名
8日 記念誌編集会議 4名
14日 記念誌編集会議 5名



06/04/2014

ヒュッテ周辺のパトロールを終えて 4月6日

平成26年度 総会開催

日時 平成26年5月17日(土)
10時～12時

場所 市民研修センター
(清水沢宮前町)

登山研修会開催 **入場無料**

日時 6月14日(土)
13時30分～15時

場所 市民研修センター

講師 福本 昭男
(夕張自然科学研究会)
仲俣 善雄
(山のトイレを考える会 広報)

終了後希望者ヒュッテへ移動。希望者は事務局へ申込み

第1回 森林パトロール

登山シーズンを迎え、登山道の整備・コースロープ設置・清掃などを行ないます。

日時 6月15日(日)

参加希望者は事務局へ申込み

ヒュッテ開き

日時 6月21日(土)

新しくなったヒュッテは、登山シーズンの始まりとともに一般利用されます。

会費の継続納入・ご寄付 ありがとうございます

お陰さまで当会は創立25周年を迎えます。引き続き会員としてご支援ください。夕張岳の自然に興味のある方、当会の活動に関心をお持ちの方はユウパリコザクラの会へ入会、又はご寄付をよろしくお願いいたします。

年会費 2,000円 家族会費 3,000円
名義 ユウパリコザクラの会
ゆうちょ口座 02780-9-43747

市民講演会 日本山岳遺産基金 認定記念報告会 兼 創立25周年記念誌発刊報告会

2011(平成23)年11月夕張岳は日本山岳遺産に認定されました。全国で7番目に認定された喜びを市民が共有し、更に夕張岳の自然を守る活動を広めていきたいと考えます。

講師 ①神谷有二(山と溪谷社・日本山岳遺産基金)
②中川 充(産業技術総合研究所)
③杉浦晃介(株式会社 セ・プラン 環境部)

日時 平成26年5月17日(土)
13時30分～15時(開場13時)

会場 市民研修センター

入場無料

第1回 高山植物パトロール

日時 6月22日(日)

参加希望者は事務局へ申込み

第6回産炭地域 子ども交流事業参加者募集 記憶に残そうふるさとの山

自然は偉大な教育者です。夕張岳の懐で思いつき自然との深い絆の尊さを学びましょう。

日時 7月19日(土)13時
～7月20日(日)15時

会場 夕張岳ヒュッテ周辺及び夕張岳

参加対象 子ども、小中高生どなたでも参加
できます。(小学生以下は保護者同伴)

内容 ヒュッテ周辺で自然と遊ぶ体験学習、
夕張岳登山学習

参加費 無料

募集人数 30人

募集期間 7月10日

参加希望の方は事前に事務局へ
お申し付けください。